

C—24 家事作業における至適領域の研究（第2報） 調理台の高さ

埼玉大	稲葉	ナミ
都立立川短大	桑田	百代
跡見学園短大	三東	純子
学習院短大	湯本	和子

1. 家事作業における至適領域をもとめ、体格との関係を見出すために本研究を行った。今回は第一報に引続いて、調理台の高さに関して、酸素需要量及び、エネルギー代謝率を測定したので報告する。

2. 調理台における作業の代表として、前報では「物の移動」について実験したが、今回は「野菜を切る」・「卵白を泡立てる」作業をとりあげた。被験者は、標準身長を中心とする高低、数名の成人女子とし、作業方法を一定にして、調理台の高さのみを変えて実験を行った。測定には、前報と同様 Douglas Bag 法を用い、ガス分析は労研式大型ガス分析器を使用した。

3. エネルギー代謝率のもっとも小さい調理台の高さは、「野菜を切る」作業では、身長 160 cm の人は 85 cm, 155 cm の人は 82.5 cm, 150.5 cm の人は 80 cm となり、身長約 53%, 「卵白を泡立てる」作業では、身長 160 cm の人は 82.5 cm, 155 cm, 150.5 cm の人は 80 cm となり、身長 52~53% にあたる数値を得た。